

## キヤノン株式会社

### 2021年第3四半期 決算説明会【主なQ&A要約】

**Q1. サプライチェーンの問題を回避することは出来なかったのか。工場の操業度低下や部材のコストアップは、4Q および 2022 年は改善に向かうと考えて良いか。**

**A1.** 今回のサプライチェーンの問題は一時的なものではなく、世界的な規模の混乱であり影響は避けられなかった。当社の工場の操業度は、現時点では通常に戻っており、さらに同一製品を複数拠点で並行生産するなど対策を講じているため、コロナが再拡大しても影響を最小限に留められると考えている。部材のコストアップは、半導体などの部品不足は今後解消していくものと思われるが、石油値上げに伴う樹脂材高騰の影響はしばらく続くと想定している。

**Q2. 4Q が対前年で減収・減益となっている要因を教えてください。**

**A2.** 当社製品の実需は堅調であるが、サプライチェーンの乱れにより、部材のコストアップや海上運賃の高騰、航空便による輸送など物流費が上昇することが、減益の主な要因である。メディカルは、昨年政府の補正予算を利用した機器の購入で売上の水準が高かったことや、製品供給不足の影響で、売上が 2022 年に後ろ倒しになった影響もある。カメラは、クリスマスなどの商戦があり、エントリーモデルの構成比率が上がり、販売経費をある程度織り込んだことで、利益率は押下げられている。

**Q3. インダストリアルその他ビジネスユニットについて、3Q は開発費が集中し、減益となったということだが、4Q および 2022 年も同じ状況が続くのか。**

**A3.** インダストリアルその他ビジネスユニットには、露光装置や産業機器の他に、材料やコンポーネントを中心とした新規事業やグループ会社の自主事業が含まれている。3Q に開発などの費用が集中したため減益となったが、年間では大きく増益であり、今後も必要なものについては先行投資を行うが、全体の業績に大きな影響を及ぼすことはない。

---

本資料で記述されている業績見通し並びに将来予測は、現時点で入手可能な情報に基づき当社が判断した見通しであり、潜在的なリスクや不確実性が含まれています。そのため、様々な要因の変化により、実際の業績は記述されている将来見通しとは大きく異なる結果となる可能性があります。このことをご承知おき。